

昭和53年卒同期会 (in 東京)

11月15日(土)、グレースバリ銀座にて昭和53年卒同期会in東京は50名の参加で開催されました。

東京での開催は、コロナ禍もあり8年ぶり。今回で4回目を迎え、秋田在住の同期生も4名駆けつけてくれ大盛会となりました。

幹事メンバー達は、収容人数に幅を持たせられる会場選に頭を悩ませていましたが、嬉しい悲鳴となりました。秋田の運営メンバーによるWebを利用したネットの集客システムが大活躍でした。

47年ぶりに、同期会初参加という兵もおり、昨日の記憶に自信がなくなる年齢でも、当時の記憶は頗る鮮明であり、高校時代が、今朝のこのように思い出され、把酒談笑。

頭のテカリも、目じりの皺も、卒業以来の勲章であると改めて友の大事さ、感じ入りました。

話しは尽きず二次会にも39人も参加、その後も銀座の夜へと。(菅谷 司 記)



大館支部

11月18日、令和7年度大館支部総会は、「北秋くらぶ」にて総勢13名により開催されました。折からの悪天候にもかかわらず、本部から佐野副会長、庫山校長先生が駆けつけて下さいました。佐野副会長は大館支部総会に初参加、庫山先生はご就任後初のことでしたが、支部会員の中に知人そして秋田高校在職中の教え子もおり、最初から打ち解けた雰囲気での参加となりました。

佐藤茂範支部長(昭和41年卒)の挨拶、本部ご来賓からのご挨拶をいただき、伊藤碩彦支部顧問(昭和35年卒)の乾杯の発声で懇親会が始まりました。全員の近況報告も含め、熊の出没等の身近な話からAIの今後の考察などの高度な話題まで、皆さんの経験を交えたユーモアに溢れた会話に花が咲き、あっという間に二時間半が過ぎました。寺岡洋一副支部長(昭和43年卒)の中締めで来年の再会を期し、本年度総会の閉会となりました。

(幹事 鬼川 光洋=昭和53年卒 記)



昭和36年卒同期会

36会例会が例年通り9月6日、竿灯通りの料亭志田屋で開催。オーナーが志田豊忠君という事で会発足後当料亭を会場としてきた。その志田君が前年10月逝去された事で彼を含め物故者への黙禱で会を始めた。

先般、魁紙「シリーズ時代を語る」欄に元明徳館高校長で県歴史研究第一人者、半田和彦君の研究者として歩みが36回に渡って連載された。この機会に半田君に講話をお願いした。歴史教師としての想いやエピソード、県近代史における新たな発掘や多くの市町村史の編集に携わった事等紙面に表されなかった興味深い話題をユーモラスに語ってくれた。

酒宴では、お互い齢八十を過ぎた老境に有る身、心境をしみじみと、あるいは意気軒昂に語り合っている姿があった。

最後に校歌を高らかに歌い、次回の再会を期して散会した。(半田 俊毅 記)



秋田市役所羽城会

1月9日、秋田キャッスルホテルで151人が出席し、総会を開催しました。来賓として庫山徹校長、銭谷眞美同窓会会長と中村順子副会長、佐藤悦紹同窓会事務局長、沼谷純市長をお迎えしたほか、顧問の柿崎武彦副市長(昭和52年卒)、猿田和三副市長(昭和57年卒)、佐藤孝哉教育長(昭和53年卒)、特別会員の市議会議員、監査委員の皆様など多数の方にご参加いただきました。

総会では決算、予算案が承認されたほか、新会長の越後谷優氏(昭和60年卒)をはじめ各役員が選出されました。総会に続き懇親会が行われ、沼谷市長からご挨拶、庫山校長から在校生の進学や部活動等のご報告、銭谷会長から乾杯のご発声をいただいたほか、マグロ解体ショーなどが行われ、終始にぎやかな雰囲気で行われました。

過ぎる時間を惜しみつつも、最後は全員で校歌を5番まで斉唱し、藤田信市議会議員(平成3年卒)のご挨拶で中締めとなり、会は盛況のうちにお開きとなりました。

(村上 央=平成2年卒 記)



②原稿の最後に執筆者名(支部等にあつては卒業年次も)をお忘れなく。

③投稿いただいた原稿、写真はお返ししません。どうぞご了承ください。(広報委員会)